



《センターのおもてなし》

今夏は、コロナ禍の中での東京 2020 オリンピック開催となりましたが、どの競技においても国の代表として頑張っている姿やトップアスリートの競い合いに熱い感動を覚えずにはられませんでした。日本においても、最年少メダリストの誕生や最多メダル数の獲得と、日本スポーツ界の競技力の高さを感じるとともに、若い力の躍動に勇気と希望をたくさん与えられた気がします。

そのような中、教育研修センターにおいてもコロナ感染対策に注意しながら、“熱い！夏季セミナー研修”が開催されました。全部で38講座が開催されました。その中からいくつかの研修の様子を紹介いたします。

センター研修で充実の夏休み！ 参加者 447名！！

◎授業づくりセミナー1・2 授業の質の向上を目指して

＜庄司康生先生＞

この講座では、小学校と中学校の授業実践（録画）の様子を視聴し、その後、埼玉大学教育学部教授の庄司康生先生にファシリテーター兼アドバイザーとして参加していただき、研修を深めていきました。小学校は第三小学校の松崎政継先生（社会科）、中学校は稲田学園の前田誠先生（数学）から授業実践（録画）の提供がありました。

＜庄司先生の講話の中の一コマ＞



＜振り返りのグループワーク＞

わからない子が
「ねえねえ、これなあに？」
学ばない子・学べない子を
そのままにしない
一人ひとりが「学び」の
主人公に

- ・6年生の子どもたちのグループの自然なつながり、やわらかさ、先生のセンス、多様な取り組みが見て取れます。（小学校社会の実践から）
- ・探求の場のあり方や対話の場が数学の授業の中で確保されていて注目すべきことです。（中学校数学の実践から）

◎授業づくりセミナー3 授業の質の向上を目指して

～学び合う子どもたちを育て学び合う学校をつくるために～

このセミナーは、学習院大学教授の秋田喜代美先生を講師に迎えての講座でした。はじめに教育研修センター指導主事から学校経営の実践「居場所を求めている子どもと先生」から「居場所としての学校」に変わるまでについての話題提供から研修がスタートしました。



「学校はなかなか変えられませんが、授業は変えられます」と、先生方に言い続けていました。

今回話題提供された学校は、人がつながっていくことで子どもがキレている姿から、子どもたちが支え合っていく学校の風土に変わってきたんですね。

＜秋田先生の講話の中の一コマ＞



活発な交流の様子です

「もみじが色づくのを見た人はいない」
人の育ちも同じかもしれない 日々の暮らしの中での深い関与がその人を変えていく。それを育ちと呼ぶのかもしれない。
人は学び合う関係の中で育つ。



＜秋田喜代美先生＞

◎ICT 機器等活用実践セミナー



ジャムボードを使うと・・・

浮いた時間を子どもたちが思考を深める時間や定着を図る時間に使うことができます。



指タッチで操作簡単！

ジャムボードって何？ オリンピック競技ではありませんよ？・・・



教室備付プロジェクターは、黒板画面が消えたり、広がったりと自由自在！！

マジックではありませんよ！

ICT 機器等活用実践セミナーは、3つの講座を開催しました。

・「ジャムボードの授業活用」

ジャムボードとは、デジタル教材ツールで、デジタル時代に育っている子どもたちには、興味関心が持ちやすく、授業の効率化を図る一助となると感じました。視覚優位の子どもにも取り組みやすい教材として有効だと思われまます。

・「Google フォームでのテスト作成と授業活用」

ミニテストやアンケート作成・集計がスピーディにできそうです。

・「スライド&スプレッドシートによるプレゼン作成」

画面が子どもたちと共有できるので、グループ学習や活動に有効です。

◎教科等教育研修会

・午前と午後で12の教科に分かれて研修を深めました。

ポジショニングの取り方で、子どもたちの学習の見取り方が変わります。本当に困っている子どもに寄り添うことが大事です。

(国語部会)



出来た時の達成感を味わわせたんです。競技の魅力や楽しさを実感させる工夫が大事ですよ。 (体育部会)

このセミナーは、授業や教育活動に課題やテーマを持ち、「こんなことをしたい」と思っている先生方対象の研修でした。12の教科ごとに分かれて行われました。

2学期には、この研修をもとに授業実践を行い、成果と課題を検証していく予定です。先生方の必要感をもとにした実践に結びつくとても有意義な研修になったのではないのでしょうか。



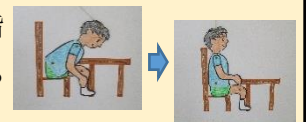
2学期スタート時は、特にいいいな健康観察を・・・

2学期がスタートしました。この1週間は生徒指導上特に気をつけなければならないと言われていいます。学校に行きにくさを感じている子どもたちは、夏休みをきっかけとして不登校になるケースが多いからです。また、9月1日は過去のデータでは、子どもたちが自ら命を絶ってしまう人数が最多であるため、1年間で一番気をつけなければならない日だと言われていいます。(全国的には9月1日の始業式が多いため)

日頃からの子ども一人一人への丁寧な健康観察や言葉かけ、悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見・対応などが大切です。福島県教育委員会では「SOSの出し方に関する教育」の指導資料も出されています。子どもの命を守り、輝く未来を育てるのは、大人の仕事であり責任であると思います。

養護教諭対象講座 おもしろミニ保健指導

生活習慣の確立やデジタル教科書導入などでの視力保護等の保健指導で使用できるおもしろ教具をいくつかを作成しました。学校での指導が楽しみです。



生活リズムの風車！

